

提案概要書 (第一次提案)

発表順

■ 市民参画による久留米市の魅力発信の仕組みづくり

- | | | |
|-----------------------|-----|---|
| 1. ちゃりんこレンジャー チーム | … P | 1 |
| 2. (仮称) マーガレット チーム | … P | 3 |
| 3. ③多様な主体が魅力を発信する チーム | … P | 4 |

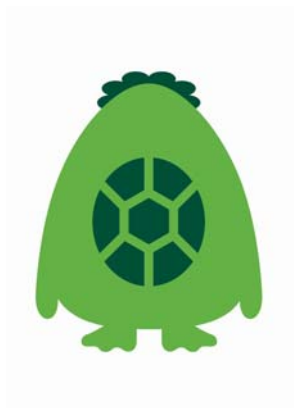
■ 子どもの成長を地域で支える仕組みづくり

- | | | |
|-----------------|-----|----|
| 1. 切れ目ない チーム | … P | 5 |
| 2. くるキッズ チーム | … P | 7 |
| 3. チーム Child | … P | 9 |
| 4. 皆の力をかりよう チーム | … P | 11 |

■ 高齢者を地域で支える仕組みづくり

- | | | |
|--------------|-----|----|
| 1. 高齢者① チーム | … P | 12 |
| 2. 高齢者第2グループ | … P | 13 |





提出年月日	平成26年6月6日	ワーキング テーマ	市民参画による久留米市の魅力発信のしくみづくり
リーダー 氏名	川田 勝志	ワーキングメンバー 氏名	隈 早苗、松永 直子、熊丸 智雄 眞子 佳子、緒方 伸恵
①	提案分野 [対応すべき課題]	自転車で久留米の魅力発信	
	現状・問題点	<p>①交通整備（インフラ面の問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は自転車の町と言われたが、今や自動車中心の都市型インフラ整備により、慢性的な渋滞、それに伴う公害、事故が発生、自動車中心の移動手段から環境面・衛生面・健康面・エコロジーの観点からそれに変わる移動手段が必要。 <p>②競輪についての問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米市の財源の一つにもなっている久留米競輪が、G1開催予定であり、広報などの活発な活動にも関わらず全体のイメージが悪く、市の財源になっていることすら知られていない。また久留米競輪出身者も久留米出身の芸能人に比べはるかに知名度が低い。 <p>③施設利用の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米競輪・筑後川河川敷サイクリングロード・サイクルファミリーパーク等施設は充実しているが、知名度は低く、自転車に主体を置いたイベントが無い。市内6箇所のレンタサイクルの場所（JR久留米、西鉄久留米、百年公園、山辺道文化館、ふれあい農業公園、JR田主丸駅）が知られていない。 <p>④自転車観光の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米市を自転車で観光する場合、市内自転車観光マップが無い、またレンタル自転車の利便性が悪く乗り捨ても出来ず、借りられる場所も限られている。 <p>⑤イベントの多さの問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントが各地であっていてもお互いをPRしたり、会場をつなぐ手段がない。 	
	達成を目指す 姿・状況	自転車活用による久留米の知名度UP	
②	提案する取り 組み(事業)	久留米の魅力を「ウォーキング」、「ランニング」に次ぐ第三の選択肢としてブームになりつつある「サイクリング（自転車）」をテーマに、久留米の魅力を配信するしたイベントを開催	

	<p>取り組み(事業)の内容</p>	<p>①九州を代表するサイクリングイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の久留米競輪選手と共に、久留米の自然・歴史の名所を自転車で走り、ゆくゆくは「ツール・ド・国東」(大分県・国東半島)を参考に、市民参加型の競技形式の大会「ツール・ド・久留米」を開催する。また、久留米の「つつじマーチ」を参考に、長距離だけでなく、家族で楽しめる短距離のコースの設定や、自転車健康教室、サイクリングファッションショー、自転車ショールームなど関連イベントも同時開催する。 <p>②競輪場イベントの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の久留米競輪選手のトークショーやふれあいコーナーなど、競輪場でのイベントを開催し、同時開催として、食・花・芸術などのイベントを市内各地で実施。各会場には自転車で移動するよう案内する。 <p>③ソフトな競輪ガイドブックの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性用・初心者用の競輪ガイドブックを作成し、レジャー感覚で楽しめるソフトなイメージの競輪をPRする。 <p>④自転車マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車で走りやすいコースや、レンタサイクルの拠点、久留米市内及び近郊の名所(花、建物、グルメ)、休憩所(公園、コンビニ)、自転車店などを掲載した自転車マップを作成。また季節ごとに、各地で開催されるイベントや名所(花、建物、グルメ)をつなぎ、気軽にサイクリングが楽しめる「チャリ旅」マップをつくり、合同でPRする。 <p>⑤レンタサイクルの利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内6箇所のレンタサイクルの拠点をPRするとともに、拠点間は自転車の乗り捨てOKにするなど利便性を高める。
<p>③</p>	<p>②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民</p> <p>関係団体等</p> <p>行政</p>

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

(仮称) マーガレット
チーム

提出年月日	平成 26 年 6 月 6 日	ワーキング テーマ	市民参画による久留米市の魅力発信の 仕組みづくり
リーダー 氏名	矢次 恵美子	ワーキングメンバー 氏名	木本 洋輔、半田 啓祐、 中園 健太、秋山 太
①	提案分野 [対応すべき課題]	市民と行政が協働する情報発信の手段（ツール・場）を考える	
	現状・問題点	<p>▽市運営するフェイスブックは、返信しないなど、運用に制限がある。</p> <p>▽市民が持っている多くの情報を効果的に吸い上げていない。</p> <p>▽ネットを活用すると、炎上対策など管理が必要。</p> <p>▽フェイスブックは、登録が必要となるなど、ハードルがあるため、踏み込みにくいと感じる人がいる。</p> <p>▽人それぞれに欲しい情報が違い、それに対応するツールがない。</p> <p>▽時代や社会情勢に応じて「効果的な」ツール・場は流動的。さらにそれに対応できていない。</p> <p>▽PR 自体をやっていても、それそのものが知られていない。</p>	
	達成を目指す 姿・状況	市民の力を最大限に効果的に生かしていく仕組みをつくり、運営を継続させる	
②	提案する取 組み(事業)	WEB 環境を活用した市民主体の情報発信の場づくり	
	取 組み(事 業)の内容	<p>○インターネット環境（SNS・ブログ・HP など）を活用</p> <p>○「市民記者」などとして登録された市民が主体的に情報を提供</p> <p>○フィルター役となる事務局的組織が、内容を選別し、情報をアップ・配信</p> <p>○「ここを見れば久留米がわかる」と認識される場所を明確化する</p> <p>●何をテーマにするか、どのような WEB ツールを使うか、などさまざまな仕掛けを考える組織体が必要</p> <p>●市民が情報を「継続して」投稿したくなるような仕掛けと周知、巻き込み方など検討が必要</p>	
③	②の取 組み を進める上 での市民、関係 団体等、行政 の役割分担	<p>市民</p> <p>関係団体等</p> <p>行政</p>	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

③多様な主体が魅力を発信するチーム

提出年月日	平成 26 年 6 月 6 日	ワーキング テーマ	市民参画による久留米市の魅力発信の仕組みづくり
リーダー 氏名	大塚 美樹	ワーキングメンバー 氏名	大塚 美樹、京野 利勇（サブリーダー）、 廣岡 睦、野村 真弓、山浦 芳樹
①	提案分野 [対応すべき課題]	<ul style="list-style-type: none"> ・発信力の強い若者・大学生たちが“市”に興味を持つ仕掛けづくり ・機械に不慣れな人も情報発信できる仕組みづくり 	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・若者は様々なツール（FB、ブログ、twitter など）を使いこなしているが、そもそも久留米市に愛着が薄いので、久留米の情報を外に発信しようと思わない。 ・多くの知識を持っていて情報を発信したいと思っている人は多いが、様々なツールが多すぎて、着いて行けない。 	
	達成を目指す 姿・状況	誰もがまちの魅力を発信できる場に、身近にアクセスできる久留米市	
②	提案する取 り組み(事業)	久留米の魅力に「気づく・共に伝える」	
	取 り組み(事 業)の内容	<p>≪Step 1≫産学官連携による若者の興味心向上にむけた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に対して集客力のある施設（飲食店等）に広報誌や市の PR ポスターを設置してもらう。 ・市について学ぶ体験交流型の研修を行い、その受入先を久留米の魅力を伝えたい地域の人に担ってもらう。 ・大学等のカリキュラムとして地場企業と協力・連携できる授業を実施し、単位を付与することで若者にやる気と責任感を持ってもらう。 <p>≪Step 2≫オール市民による情報発信の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の拠点となる WiFi 環境やタブレット端末が整備されたサロンを市内に開設する。 ・集客力のある施設等に市民が自由に情報発信できる電子掲示板やパンフレット掲示コーナーを設ける。 ・広報誌に市民枠を設け、読み手の興味を引く企画を市民自身で立案・編集してもらう。 ・情報発信の意識が高い人のモチベーションを継続させるために、くるめの魅力発信大使制度を創設する。 	
③	の役割分担	<p>市民</p> <p>関係団体等</p> <p>行政</p>	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

提出年月日	平成 26 年 6 月 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	速水 麻友子	ワーキングメンバー 氏名	佐藤 佐和香、田中 崇、権藤 敏博、 尾花 清美、河野 昌枝
①	提案分野 [対応すべき課題]	・ 乳幼児の子育てを支える（切れ目ない子育て支援の体制づくり）	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティ期は、行政からの支援は充実しているが、妊婦同士の交流が生まれるような場は少ない（支援センターなどの子育て支援施設は妊娠中は行きにくい）。 ・ 子育て支援情報が必要な人に届いていない。情報が一元化されていない。 ・ 保育園の入園手続きに関する情報を知らない人が多い。希望する保育園に入れない、母親が入園を希望する時期に保育園の空きが無い現状。 ・ 社会環境の変化による多世代交流の減少、子育て知識継承の困難化。 ・ 発達障害を持つ親子へのサポート体制や社会の理解が乏しい。 	
	達成を目指す 姿・状況	・ 子育てに関わる人を増やし、子育て支援に対する意識の醸成を進める。	
②	提案する取 組み(事業)	・ 「子育てお助けボランティア」の活用	
	取組み(事 業)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援に関するボランティアを幅広く募り、保育園や子育て支援関係の施設で活動を行う。 ＜子どもにいろいろな人に関わってもらえるように子育て当事者、高齢者、学生、企業などから幅広く人材を登録し、自分が活動したいときに参加できるような組織作りを行う＞ ・ 企業や学校などに、所有バスを保育園児の送迎サービスなどに利用出来るように協力を呼びかける。 	
③	②の取組み を進める上 での市民、関 係団体等、行 政の役割分 担	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">市民</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">関係団体等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">行政</div>	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

提出年月日	平成 26 年 6 月 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	速水 麻友子	ワーキングメンバー 氏名	佐藤 佐和香、田中 崇、権藤 敏博、 尾花 清美、河野 昌枝
①	提案分野 [対応すべき課題]	・ 乳幼児の子育てを支える（切れ目ない子育て支援の体制づくり）	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティ期は、行政からの支援は充実しているが、妊婦同士の交流が生まれるような場は少ない（支援センターなどの子育て支援施設は妊娠中は行きにくい）。 ・ 子育て支援情報が必要な人に届いていない。情報が一元化されていない。 ・ 保育園の入園手続きに関する情報を知らない人が多い。希望する保育園に入れない、母親が入園を希望する時期に保育園の空きが無い現状。 ・ 社会環境の変化による多世代交流の減少、子育て知識継承の困難化。 ・ 発達障害を持つ親子へのサポート体制や社会の理解が乏しい。 	
	達成を目指す 姿・状況	・ 妊娠、子育て中の親子が子育て支援情報を知り、必要な支援を受けながら安心して子育てができる。	
②	提案する取り 組み(事業)	・ 「プレママ交流会」の実施	
	取り組み(事 業)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久留米市で開催されているイベントなどで「マタニティフェア」を同時開催し、出産予定日が同じ時期のプレママ同士での交流やグループトーク、先輩プレママや保健師等による相談、幼稚園や保育園の情報コーナー、発達障害などに関する相談ブース、子育てグッズお試しコーナーなどを設定する。 ＜ボランティア主催で開催し、病院関係（産婦人科、小児科）や企業（ベビー用品など）にも呼びかける。プレママのみで集まれる場と、子どもとの交流が出来る場や体験コーナーを準備。プレパパも巻き込む形でのコーナーを検討＞ ・ プレママが地域ごとに集まって交流できる拠点作り。 ＜母子手帳配布時や産婦人科などに広報協力をお願いし、小学校区のコミュニティセンターなどでの交流会を毎月開催。開催のために行政、地域、ボランティア、先輩ママなどの協力体制を整える＞ 	
③	②の取り組み を進める上での 市民、関係 団体等、行政 の役割分担	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">市民</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">関係団体等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">行政</div>	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

チーム名：くるキッズ

提出年月日	平成 26 年 6 月 9 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	横道 勝紀	ワーキングメンバー 氏名	阿部 展明、古川 克介、羽江 育子、 阿比留 拓見、坂田 里奈
①	提案分野 〔対応すべき課題〕	放課後の居場所づくり	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯、ひとり親世帯、核家族化が進んでおり、子ども達が放課後帰宅しても、家に子どもだけで孤立している。 ・学童保育後に帰宅しても、保護者の帰りが遅い世帯は、子どもだけで孤立している。 ・放課後の居場所として、学童保育・運動クラブ・学習塾などがあるが、費用負担や送迎ができず通うことができない子どももいる。 ・子ども達同士、学年を越えたつながりが薄い。 ・放課後、自由に使うことができる場所(学校体育館、学校内研修室、校庭、コミセンなど)がほとんどない。 	
	達成を目指す 姿・状況	子ども達が、放課後に孤立せず、学年を越えて縦と横のつながりを持てる交流を図る。	
②	提案する取り 組み（事業）	月 1 回、小学生の学校内での放課後活動	
	取り組み（事 業）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・移動がなく安全で、慣れ親しんでいる小学校の空き教室を利用して、学校内で放課後活動（参加者同士の交流ができるレクリエーションや遊び等）を行う。 ・保護者、地域の退職世代や大学生により、活動の指導や見守りを行う。 ・関係団体は、安全管理や運営方法等、活動への助言を行う。 ・活動に係わる市民、団体、行政で、定期的にワーキングを行い、課題把握やその解決策を検討し、地域にマッチした活動につなげていく。 	
③	②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">市民</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">関係団体等</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</div> </div>	

提出年月日	平成 26 年 6 月 6 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	馬場 義之	ワーキングメンバー 氏名	鐘ヶ江 淳一 ・ 村井 麻木 合原 久美子 ・ 橋本 五郎
①	提案分野 [対応すべき課題]	・ 子育てに関わる人を増やす	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会におけるコミュニティ組織が希薄化し、地域や子ども会の世話やPTA役員等になりたがらない傾向が強くなっている ・ 男性の育児、家事参加が少ない。 ・ 学校への過大な期待があり、先生にばかり負担を強いている。 ・ 学校を支える体制が不十分である。 ・ ボランティア活動はさかんであるが、サポート体制が不十分である。 	
	達成を目指す 姿・状況	学校と家庭・地域社会が連携し、子どもの成長を支える仕組みを再編し、学校と家庭・地域社会の双方にメリットがある関係に変える。	
②	提案する取 組み(事業)	子育て支援コーディネーター事業（仮称）	
	取組み(事 業)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が教育活動を行う上で必要としている「支援」(ひと・もの・こと)を地域社会に働きかけ、学校に提供する役割を担う人を「コーディネーター」として登録する。 ・ コーディネーターの登録は、小学校校区単位とし、校区の規模により登録人数を変える。 ・ コーディネーターは、無償ボランティアではなく、市の嘱託非常勤職員として位置づけ、地域コミセン（または学校）に常駐する。 ・ コーディネーターは学校のニーズを把握し、学校の教育活動を支援するために最適な地域教育資源や人材を提供する。 ・ 行政は、広報活動を通じて、学校を支援するための「地域資源」募集を行い、地域ボランティア団体やNPO法人などを「支援バンク」に登録する。 ・ 学校は、コーディネーターから提供を受けた「支援」をもとに取り組んだ教育活動は、学校通信や学校ホームページを通じて、その成果等を情報発信する。 ・ 事業の実施にあたっては、規模が違う校区を2つほどモデル校区として指定し、本事業の広報活動を行う。 	

③	②の取り組みを進める上で の市民、関係団体等、行政の役割分担	<div data-bbox="416 129 475 170" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民</div> <div data-bbox="416 311 555 351" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関係団体等</div> <div data-bbox="416 535 475 575" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行政</div>
---	-----------------------------------	---

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

提出年月日	平成 26 年 6 月 6 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	岸田 兼一	ワーキングメンバー 氏名	杠 颯一朗、柴田 晃、柴原 美規 坂井 輝久、川野 寛史
①	提案分野 [対応すべき課題]	さまざまな世代・立場の人を活用した子どもの育成	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティ内の関係性が希薄化している ・ 子育て世代の親同士の交流機会が少ない ・ 子どもにとって、信頼して相談できる相手（環境）が少ない ・ 子どもとの向き合い方に悩む大人が増えている ・ 子育て支援の情報やサービスが、それを必要とする親に届きにくい ・ 教育現場で、子ども一人一人に合わせた細やかなフォローができておらず、学習意欲の低下や疎外感を感じる子どもが増えている。 	
	達成を目指す 姿・状況	多様な価値観を持ち、健全な心（人間性）に成長する子どもがたくさん育まれる 地域	
②	提案する取り 組み(事業)	子ども一人ひとりの成長に、多世代の様々な人が関わる	
	取り組み(事 業)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材を活用し、子どもの社会性を高める活動や、自らの体験を話し聴かせる等の心の成長を促す場を設ける。 ・ 家庭や学校にだけ押し付けず、親・教師・地域で三位一体となって子育てに関わっていく仕組みづくり。 ・ 子どもを育てる親として有しておくべき知識や、大切な考え方を学び体験できる場を設ける。 	
③	②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担	<p>市民</p> <p>関係団体等</p> <p>行政</p>	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

提出年月日		ワーキング テーマ	高齢者の生きがいつくり・健康づくりを支える
リーダー 氏名	保坂 昌孝	ワーキングメンバー 氏名	綾戸麗子・江上憲一・川合文太・芹田隆子 辻摩夕実・松田眞由美・野田国広・河原菊子
①	提案分野 [対応すべき課題]	高齢者のふれあい交流支援	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が地域の身近な所で交流をする場所がない ・ 高齢者の交流を支援するボランティア等が少ない ・ 地域や個人の負担が大きい ・ 高齢者が高齢者を支援している ・ 地域で呼びかけても交流に参加されない方もいる 	
	達成を目指す 姿・状況	高齢者が身近な場所でふれあい交流することで、 住み慣れた地域において笑顔で安心して暮らすことができる。	
②	提案する取り 組み(事業)	① 高齢者の交流の場の設置 ② 高齢者の支援者や地域リーダーの育成	
	取り組み(事 業)の内容	1、校区コミュニティ組織・民生委員・自治会との協働体制の構築 2、高齢者を支援する者への助成制度の検討 3、高齢者支援者の育成、地域での人材発掘 4、地域の空き家や自治公民館等の活用資源の発掘及び利用促進 5、地域ふれあいマップの作成	
③	②の取り組み を進める上での 市民、関係 団体等、行政 の役割分担	市民 関係団体等 行政	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書(高齢者第2グループ)

提出年月日	平成26年6月6日	ワーキング テーマ	高齢者の日常生活を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	堀口 敏憲	ワーキングメンバー 氏名	坂田拓真(サブリーダー)、古賀信夫、最所 崇 江頭敏夫 松本忍み子、一ノ瀬イツミ、菊池晋兵、堀口 敏憲
①	提案分野 [対応すべき課題]	高齢者の日常生活を支える	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う体力の低下等の要因のほか、高齢者の単身世帯や夫婦世帯及び高齢者のみの世帯の増加、近所づきあいの希薄化などにより、「食事の準備」や「掃除」などの日常生活上必要な作業が困難になっていたり頼れる相手がいなかったりするケースが増えている。 ・家族や近所づきあいの希薄化、お互いに支え合い助け合う働きが弱まっていることにより、孤立しがちな高齢者が増えており、また支援をしたくても居場所が分からないこともある。 	
	達成を目指す姿・状況	高齢者が日常生活上必要な作業に困ることなく、また、閉じこもり等によって孤立することなく、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるようにする。	
②	提案する取 り組み(事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者対策事業支援 	
	取 り 組 み (事 業) の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ組織や市民活動団体等が、地域に住んでいる高齢者の抱える課題を抽出・把握し、その解決を目的として自主的に行う「地域の高齢者対策事業」を支援する。 ・支援可能事業と市の担当窓口をパンフレット化して広く配布し、市の担当課は事業実施に係るアドバイスを積極的に行うと共に、事業に対して補助等も行う。 <p>(支援メニュー)</p> <p>【日常生活支援編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「地域活動支援インターンシップ制度」による世代間交流と人材の育成 ② 地域資源の連携による「高齢者の日常支援を目的とするNPO法人」の立ち上げ <p>【見守り支援編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施 ② 「地区高齢者支援マップ作成」(地区内高齢者の居住場所、見守り等の必要性の有無、支援体制の構築、各種事項の相談先) 	
③	②の取 り 組 み を 進 め る 上 で の 市 民 、 関 係 団 体 等 、 行 政 の 役 割 分 担		